

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

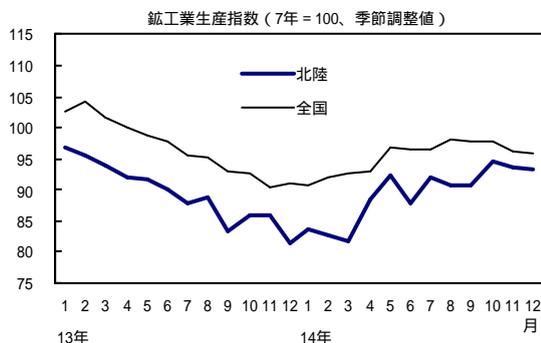
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 11 月)	今回 (平成 15 年 2 月)	
鉱工業生産	増加傾向	増加	
個人消費	緩やかな持ち直しの動きが続いている	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	緩やかに減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

金属製品は、アルミ建材で首都圏の再開発事業に伴うビル用が底固く推移しているほか、主力の住宅用モリフォーム案件への取組強化もあって生産が増加している。繊維は、衣料用外需で中国向けを中心に減少し、内需でも、低価格輸入品との競合等により引き続き低迷しているものの、エアバッグやカーシート等の自動車内装材は堅調に推移している。電気機械では、携帯電話向け、DVD関連機器向け及び自動車向け等の半導体集積回路が堅調に推移するなど、全体でも高水準を維持しているものの、このところ一服感がみられる。一般機械は、繊維機械が中国向け受注により高水準を維持し、建設機械も新製品投入効果などから持ち直しているほか、自動車関連メーカー向けのプレス機械や工作機械が堅調に推移している。化学は、医薬品が増加し、医薬部外品もドリンク剤を中心に堅調に推移しており、全体でも増加している。



(備考) 平成 14 年 12 月の北陸は速報値。

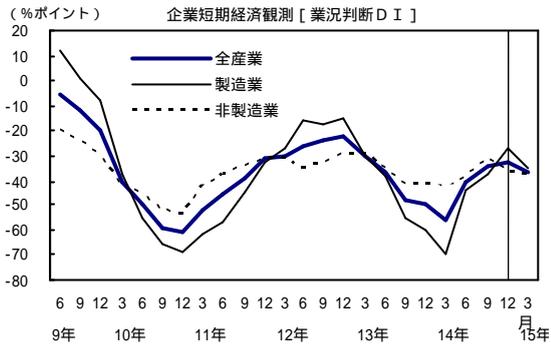
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
金属製品	15.6	2.0	6.6	-	-
繊維	15.3	1.9	0.3	-	-
電気機械	14.6	6.3	3.6	-	-
一般機械	13.2	4.3	8.1	-	-
化学	11.3	3.2	8.8	-	-
鉱工業	100.0	2.1	3.0	-	-

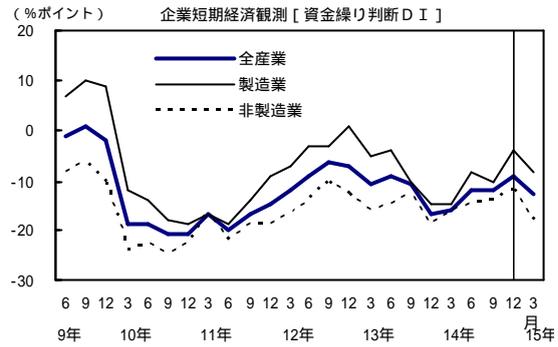
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。
 中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「カメラ付き携帯電話の売行きは好調であるが、新規の契約は依然として少ない (通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

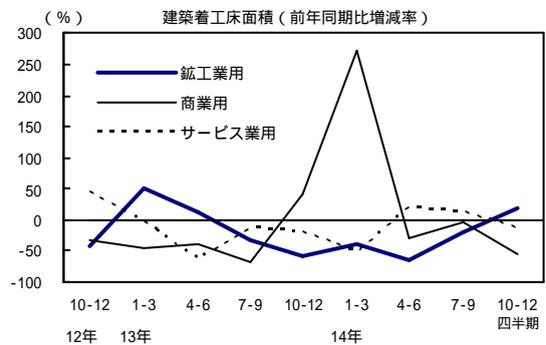
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	14.0	7.7 (4.5)
製造業	17.2	11.0 (3.7)
非製造業	6.7	1.1 (5.9)

(備考) ()は前回 (9月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

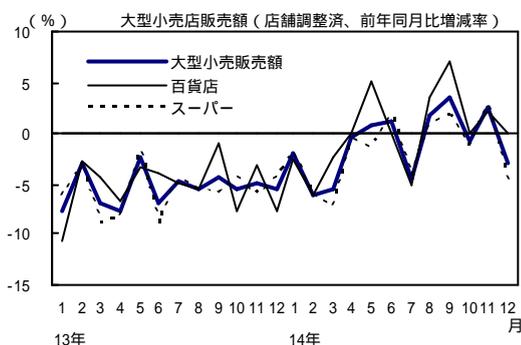
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月はジャケットや肌着などが動き、11月は気温が低めに推移したこと等からコートなど冬物衣料が好調で、12月は身の回り品が大きく前年を上回るなど、衣料品は8月から5か月連続して前年を上回った。また飲食料品も堅調に推移して11月、12月と前年を上回り、一部百貨店の増床オープン効果も続いていること等から、全体でも5か月連続して前年を上回った。

スーパーは、衣料品が、婦人服を中心に好調であった11月を除いて前年を下回ったものの、飲食料品が堅調に推移しており、全体ではおおむね横ばいとなっている。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

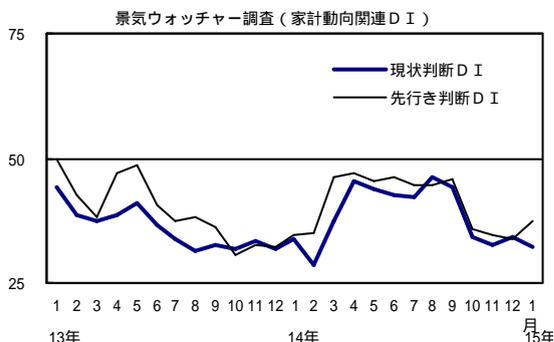
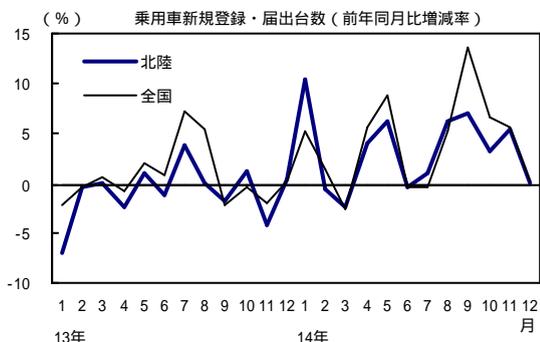
「セール期に入り、来客数は増えている。しかし、20、30歳代の女性ファッションで、一部のブランド品は多少の実績を上げているものの、全体的には買上点数などが伸び悩み、厳しい状況が続いている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.3	0.6	0.1	0.6
百貨店	3.5	1.7	0.7	0.7
スーパー	4.7	0.0	0.6	1.3
乗用車	0.1	3.1	4.6	3.0
景気ウォッチャー	33.2	44.0	44.4	33.7

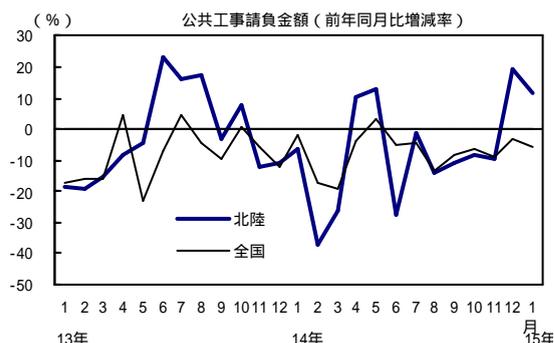
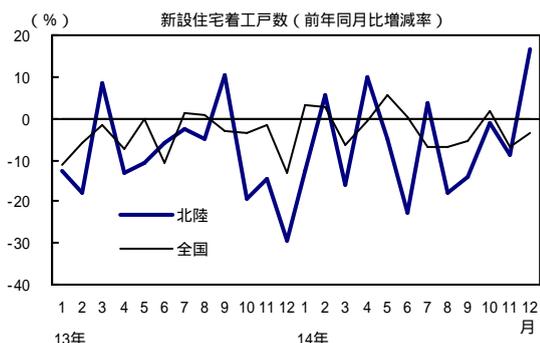
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家、分譲が前年をわずかに上回っているものの、全体では緩やかに減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

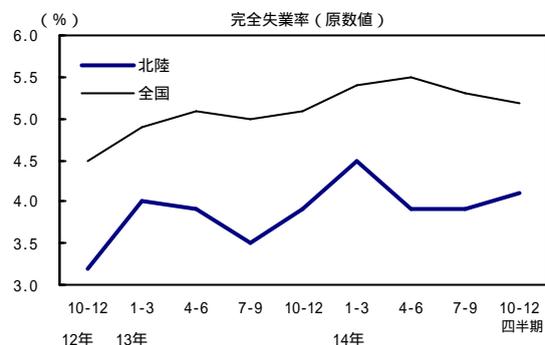
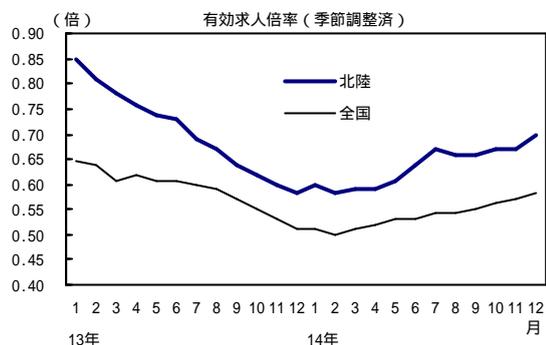


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

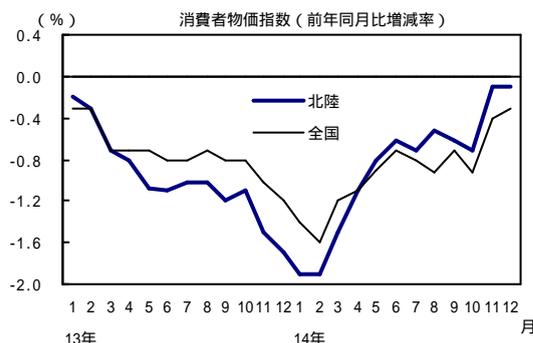
「求人の受理状況に大きな変化はない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答や、「求人数、求職者数に大きな動きはみられないが、廃業、倒産、人員整理などが年末から1月にかけて増加している(職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	15年1月
倒産件数	127	116	148	114	40
(前年比)	24.5	3.6	24.4	0.9	5.3
負債総額	459	328	649	317	201
(前年比)	103.5	20.7	117.9	77.9	165.4



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・最近、客単価を低く設定する競合店がいくつか出店し、またプライダグ誌でも料金を低くする動きが1月から目立っている(美容室)。

<先行き>

・システム系の提案に対して、客はコストの削減を目指して、IT化を一層進めたいという意向を潜在的に持っている。ただ、すぐに行うべきか否かで迷いがあり、需要がなかなか顕在化しない(通信業)。

